

課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
18107002	新規脳分子による新しい生殖制御機構の 解明	筒井 和義（早稲田大学・教育・ 総合科学学術院・教授）	A+
<p>本研究は、ウズラから発見した生殖を制御する脳機能に関わる生殖腺刺激ホルモンの放出を抑制する GnIH が、霊長類や無顎類にいたる脊椎動物の脳に存在し、進化的にも起源を同じくして、生殖刺激ホルモンの放出を抑制する機能を担っていることを明らかにした。さらに、その発現がメラトニンによって誘導されることなども解明している。特筆すべきこととして、古典的には GnRH によって制御されているとされていた生殖制御機構について、研究代表者らの発見した GnIH の機能とその重要性を解明している。この点において、生殖制御機構研究の分野で世界的にも注目される研究を進めていると評価される。この期間の研究成果について、多くの論文を発表すると共に、数多くの reviews も発表している。GnIH 同属ペプチドの受容体（Gタンパク質共役型受容体）を同定しており、クローニングも行っているので、シグナルカスケードについても解明されるとさらに厚みを増すが、研究計画としては、ホヤやナメクジウオ、タコなどの解析へと進める予定としている。このような研究計画を着実に実施できており、今後のさらなる進展も期待される。</p>			